

第1回経営推進会議報告

日時 4月5日 9時30分～10時00分

場所 4-1会議室

出席者 17人

1 水道・工業用水道ビジョンあまがさきの概要について

水道事業管理者から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・過去に地盤沈下の問題があったが、現在は安定している。地下水利用の考え方はどうか
地下水に関する部署としては河港課、保健所と情報を共有化し対応しているが、その利用に関しては保健所が水質の問題もあり、利用しないよう指導している。しかし、ココエのトイレ用に使用しているように、最近使用されつつあるというのが現状である。水道局としては安全な水を使ってもらいたいということと、工業用水を浄化処理して水道水として利用すると一般の水道水の使用量が下がるといった影響もある。
- ・地下水を飲料用水として使用しないよう規定しているのか。また、条例化についてはどうか。
条例化については検討している。地下水のチェックは毎日しているが、コストがかかるという問題もある。
- ・5つの視点の中に国際化という文言があるが、水道事業にはなじまないのではないかと。
水道事業を取り巻く状況としては、大阪市がベトナムや中国に進出していることや、国外において民間企業と合同でプラント建設している実態がある。自治体レベルでは意識は希薄であるが、国の方針が示されているものである。
- ・この概要版では水道事業と工業用水道事業が目指すところは3ページの将来像と基本目標として記載されているくらいであるが、本編では示されているのか。
基本的には国が水道のビジョンをつくっているもので、本編の内容は実施計画に近いものである。あくまで方向性を定めているものであり、具体的な数値目標は記載していない。ビジョンとしては、3ページのライフラインとしての役割に集約されている。また、6ページに長期的な課題を記しているが、水道事業の目指す方向については、官民連携して取り組まなければならない、そういった面も含めた経営方向を検討している。
- ・将来の水需給計画は示されているのか。
本編に記載しているが、現在の水需要は落ち込んでおり、水利権が負担になっている。水道局としては、一日最大配水量を19万 m^3 とし、使用量は人口によって変動するため、将来的な水需要は15万 m^3 と19万 m^3 の2種類を設定している。施設の運営としては、これまで南配水場と北配水場を廃止しており、現在は園田配水場と、水道水と工業用水を供給している神崎配水場の一部で行っており、効率的に実施したいと考えている。
- ・水道事業は阪神水道企業団や県内他都市も関係があり、工業用水道事業は産業界との関係もある。審議会では大阪市との連携も踏み込んでいるので、今後、状況に変化があれば報告してもらいたい。また、本編の配布もお願いしたい。

2 その他

- ・環境市民局長から年度末における土曜日の開庁状況と資源化できる紙ごみがクリーンセンターに搬入されている状況について、資料に基づき以下のとおり報告があった。

年度末の混雑を緩和するため、各種届出や国保、子ども手当などの臨時窓口を開設し、3月27日は299件、4月3日は371件の計670件を受け付けた。また、これをどのように知ったのかを調査したところホームページが3月27日は31%、4月3日は40%、チラシが23～24%、電話が16～21%、市報が7%であった。

次に、紙資源のリサイクルには力を入れてきたが、3、4月は公共施設から710kgがあったが、資料のとおり本やノート、雑誌、オフィス古紙が含まれているところがあった。本庁舎は徹底されてきたが、支所や学校、公営事業所はエコあまくんとしてボランティアで取り組んでいるので、今後とも協力をお願いする。

以上